

令和6年12月17日

宮古市議会議長 橋本 久夫 様

議員定数等調査特別委員会

委員長 田 中 尚



議員定数等調査特別委員会報告書

本委員会は、「人口減少の進展や、議員のなり手不足が地方議会の課題となるなか、将来にわたって住民代表機関として市民の信託に応えるべく、議決機関としての機能を維持するとともに市民福祉の向上に寄与する適正な議員定数と報酬について、調査を行う特別委員会」として、令和4年8月5日の議決により設置された。

ついては、活動経過及び調査課題に対する本委員会の結論を別紙のとおり報告する。



1 委員会の活動経過

(1) 委員会の開催

年 月 日	内 容
令和4年 8月 5日（金）	・ 正・副委員長の互選について
10月25日（火）	・ 調査事項に関する情報共有について ・ 今後の調査計画について
11月22日（火）	・ 今後の調査計画について
令和5年 5月 8日（月）	・ 視察研修について ・ 市民との意見交換について ・ アンケート調査について
10月27日（金）	・ 議員定数及び報酬の方針について ・ アンケート調査について
令和6年 1月12日（金）	・ アンケートの実施について
3月13日（水）	・ 議会報告会での定数・報酬等への意見について ・ 正副委員長の意見 ・ 令和6年度のスケジュールについて ・ 市民アンケートの進捗状況について
5月 8日（水）	・ 市民アンケート結果について ・ 年間スケジュールについて ・ 全国の類似団体について ・ 議員定数意見票による委員間討議
5月30日（木）	・ 市民との意見交換資料（議員定数・議員報酬）について ・ 市民との意見交換の開催方法について ・ 議員全員協議会への報告について
7月16日（火）	・ 市民との意見交換資料（議員定数・議員報酬）について ・ 市民との意見交換のスケジュールについて
9月12日（木）	・ 委員長の辞任について ・ 委員長の互選について
10月16日（水）	・ 議員と語っぺす！MTGの概要報告について ・ 今後のスケジュールについて
10月23日（水）	・ 議員報酬についての委員間討議
11月18日（月）	・ 議員報酬の改定額及び施行時期について
12月 6日（金）	・ 委員会の報告書について

(2) 視察・研修

視察期間 令和5年5月24日(水)

視 察 先 久慈市議会

八幡平市議会

視察人員 委員9名、事務局3名

内 容 議員定数及び報酬の検討に関する取り組みについて

そ の 他 久慈市、八幡平市ともに、議員定数の見直しに至る経緯(特別委員会等の設置と、意見集約までの経過、議決時の状況など)の説明を受けたのち、質問及び意見交換を行った。

(3) アンケート調査

調査期間 令和6年2月中旬から3月15日(金)まで

対 象 [郵送依頼分]は、18歳以上の市民から無作為に1,000人抽出
回答数:375件

[インターネット回答]は、誰でもインターネットから回答可能
回答数:40件

結 果 アンケート結果を令和6年5月8日の特別委員会で報告
概要版をホームページに公開

(4) 議員と語っぺす!MTG(市民との意見交換)

期 間 令和6年7月24日～8月9日の土・日・月曜日を除く
9月12日、26日の計13回

場 所 市内11中学校区ほか

宮古商工会議所青年部、岩手県立大学宮古短期大学部を対象に
実施

そ の 他 2班体制で実施

2 委員会の結論

(1) 議員定数

アンケート調査では、議員定数を「減らすべき」との回答が62%、「現状のままで良い」との回答が35%であった。「減らすべき」と回答した方のうち、約24%の方の理由は「人口減少に合わせて減らすべき」であった。そのほか「無投票は議員の質の低下に繋がる」「活動している内容が分からない」などの意見があった。

本委員会の意見としては、「人口減少を考慮して」「県内他市の人口と議員数を比較して」「現在の欠員状況を踏まえて」などの理由で「減らすべき」とする意見が多い一方で、「住民のニーズは多様化し、人口が減っても、事務事業が減ることはない」「議会の役割と機能を維持するためには、3つの常任委員会を維持する必要がある」「広大な面積を持つ本市の状況を考え、極端な削減はできない」とする「減らすべき」とは思うが大幅な削減には慎重な意見もあった。

そこで、本委員会では、9割の委員の意見が「2～4名の削減」であることを資料に明記し、「議員と語っぺす！MTG」に臨み、市民の意見を聴いた上で、本委員会の結論を出すことにした。

「議員と語っぺす！MTG」では、本委員会の意見に同調する意見が多く、中には「大幅に減らした方がいい」という意見もあったが、一方では、「議員が居ない地区もある、全地区に居て欲しい」と削減に慎重な意見もあった。

本委員会の結論としては、「議会の役割と機能を維持するためには、3つの常任委員会を維持する必要がある」「常任委員会の委員は、最低6人必要である」「3常任委員会×6人+議長=19人」が現行の3常任委員会を維持するために必要な最低限の人数であることから、議員定数は3人減の19人と結論付けた。

なお、議員定数に関する条例の改正は、令和7年3月定例会議において委員会発議で議案を提出することとし、実施時期は次期改選（令和8年5月）からとする。

(2) 議員報酬

アンケート調査では、議員報酬を「減らすべき」との回答が46%、「現状のままで良い」との回答が45%であった。「減らすべき」「現状のままで良い」と回答した方のうち、約12%の方の理由は「報酬に見合った活動が見えない」であった。一方、別集計のインターネット分では、「増やすべき」「減らすべき」「現状のままで良い」の割合は、33%ずつで同率であった。「増やすべき」と回答した方のうち、約62%の方の理由は「有能な議員確保のため、議員の魅力向上、若い人の出馬が見込める」であった。

本委員会の意見としては、「平成の合併時（平成18年）に、5千円引下げて月額32万円としたまま、約18年変わっていない」「議員報酬は、平成7年から約30年増額していない」「生活が保障される内容であれば、若い人材が出馬する」「平成30年6月から通年議会を導入したことから、議員活動が活発になっている」などの理由で、全委員が「増やすべき」との意見であった。

また、「議員には、退職金や年金がない」「市職員と比較すると、期末手当、費用弁償（通勤費）はあるが、扶養手当、住居手当、時間外勤務手当などはない」「社会保険、定期健診など、一般企業でいう福利厚生がない」などの事柄は、市民に知られていないと思うので、市民との意見交換の際は、こういった事柄も説明するべきとの意見があった。

そこで、本委員会では、8割の委員の意見が「5～8万円の増額」であることを資料に明記し、「議員と語っぺす！MTG」に臨み、市民の意見を聴いた上で、本委員会の結論を出すことにした。

「議員と語っぺす！MTG」では、「約30年増額していないこと」「退職金や年金がないこと」「若い人が出馬するために議員報酬の引き上げが必要であること」を説明すると、多くの参加者は議員報酬の増額に理解を示したが、その引き上げ額については、明確に表明する方は少なかった。

本委員会の結論としては、アンケート調査では「増やすべき」との意見は少数であったが、議員報酬の推移と背景を説明した「議員と語っぺす！MTG」では、議員報酬の増額に理解を示す方が多数であったことから、「増やすべき」との方向性は全会一致で確認された。しかし、その増額の金額については意見が分かれ、3万円増とする委員が2人、5万円増が5人、8万円増が1人、10万5千円増が1人であった。それぞれの金額の根拠は、「議員と語っぺす！MTG」資料のとおりである。

多数の意見は、5万円増であったが、議員報酬の改定は「特別職報酬等審

議会」によることから、議会から市長へ要望する際は、要望額「5万円以上」とし、本委員会内で幅広い意見があったこと、一般職員と同様に「議員報酬も毎年見直すこと」との意見も付け加えることとした。

また、議長・副議長の報酬額については、議員報酬の増加率を用いて増額することも要望に付け加えることとした。（3その他（1）参照）

なお、議員報酬に関する条例の改正については、次の流れを想定している。

- ① 議会から市長へ議員報酬「5万円以上の増額」を要望する。
- ② 市長は、議員報酬の審議を「特別職報酬等審議会」に諮問する。
- ③ 市長は、「特別職報酬等審議会」の答申を受け、令和7年3月定例会議において、議員報酬に関する条例の改正案を提出することとし、施行日は令和7年4月1日とする。

3 その他

（1）議長、副議長、議員の報酬額増額の例について（5万円増の場合）

	議 長	副議長	議 員
現 行	401,000 円	339,000 円	320,000 円
要 望 額	464,000 円	392,000 円	370,000 円
増 加 率	—	—	1.156

※議長・副議長の要望額の算定には、議員の増加率 1.156 を用いる

（2）委員名簿

No.	氏 名	備 考
1	田 中 尚	委員長
2	鳥 居 晋	副委員長
3	古 舘 博	
4	白 石 雅 一	
5	西 村 昭 二	
6	伊 藤 清	
7	工 藤 小百合	
8	長 門 孝 則	
9	落 合 久 三	
10	松 本 尚 美	
11		

定員：11人（欠員：故 坂本悦夫）（敬称略）

